



昭和湯リニューアルオープンの瞬間。



- ① オープンを待っていたお客さんたちを忙しく受け付ける4代目の新田啓二さん。
- ② 凝った意匠があちこちに。



津田六右衛門

銭湯ホットスポット

# 徳島・津田

## 漁師町の奇跡



津田地区の南側にある漁港、与茂田港。

## 昭和湯

何本かの川が集まって海に注ぎ込む河口三角洲の街、津田。どこからも必ず橋を渡らねば行けない「島」だ。

バスが津田地区に入ると、正面にポコンと津田山が迫ってくる。小さな山だがここは江戸期の伝説「阿波狸合戦」の親玉、六右衛門狸の住み家との伝承がある。日本昔ばなし的ノンビリムードが漂う片田舎、といったのどかさだ。

家風呂が一般的となった今日ではより広範囲からの集客が銭湯存続の鍵となるため、アクセスの良し悪しが重要だ。人口減少と高齢化に悩む地方都市ではなおさらだろう。津田に照らししてみると、ここは銭湯廃業の条件が揃っている、と言っても間違いではない。

ところが、この地で1933（昭



徳島駅から徳島バス南部循環線（右回り）で約15分

1時間に1〜2本のバスが通う、津田という古い漁師町。銭湯は奥まった狭い集落内にあり、幹線道路からは煙突さえ見えない。道行く人影はまばら、ニュースと言えば銭湯廃業くらいしかなさそうな気配さえ漂う。

ところが今この津田が、銭湯界で熱い注目を集めている。

(松本康治)



④大和湯の浴室は楕円浴槽が中央にナナメ配置され、フチにはザラツとした洗い出しが使われるなど地方銭湯ならではのディープな味わい。  
 ⑤大正13年、大和紋右衛門、と記された当時の郡役所の鑑札。



③昭和湯脱衣場の流し台。ところどころに金魚のタイルが散りばめられている。  
 ⑥女湯側は夕焼けの津田風景。  
 ⑦以前、駐車場だったスペースはロビーになった。吹き抜けの高い天井、神棚など、地元の木をふんだんに使った伝統的かつ心地よい空間が生まれた。壁には改装前の昭和湯の写真が展示されており、この湯の歴史を感じさせられる。



男湯の壁画。京都市立芸術大学の女子学生グループが数日がかかりて描いたもの。



負に違いない。  
 まったく観光化されて来なかった津田での、この入魂の改装。なんだか胸が熱くなる。

【昭和湯】

徳島市津田本町 3-3-23  
 ☎ 088-662-0379 P 有  
 ⌚ 14:00 ~ 22:30  
 🗓 3・13・23日  
 徳島バス「津田2丁目」歩6分

# 大和湯

これで驚いているわけにはいけない。なんと、昭和湯からわずか徒歩3分のところにもう1軒、大和湯という銭湯が存在する。昭和湯よりも古い大正13年の湯屋鑑札が残る老舗だ。この至近距離で2軒が今も共存するとは、いかに津田が古くから外湯文化の根付いてきた土地であるかが偲ばれる。大和湯は、番台に和やかなおかみさ

和8)年から営業を続ける昭和湯が、2018年8月に全面リニューアルオープンした。  
 このご時世、嬉しい話だ。しかも昭和湯の場合、改装で失われがちな元のレトロ風情やローカリティを増強する方向で行われており、一目見てわーっと声が出た。  
 随所に見られるこだわりの中でも、白眉は浴室の壁画だろう。絵が描かれている壁はそれ自体が津田山を型どっていて、そこに津田の名所が描かれ、伝説の阿波狸たちが踊ったり歌ったり。設計も施工も、銭湯を初めて手掛ける会社が腕まくりして取り組んだ。いろんな面で従来の銭湯リニューアールに見られないチャレンジだ。  
 改装を主導した4代目の新田啓二さんは最近までサラリーマンをしていて、小さな子どもが二人いる。下世話な話だが、人生を賭けた大借金の大勝